

船舶事故調査報告書

平成23年9月15日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行

事故種類	衝突
発生日時	平成23年1月10日（月、祝日） 11時45分ごろ
発生場所	岡山県倉敷市 ^{しもついで} 下津井港南方沖 下津井港一文字防波堤西灯台から真方位135° 650m付近 （概位 北緯34° 26.0′ 東経133° 47.3′）
事故調査の経過	平成23年3月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A モーターボート ^{むね} 宗丸、1.5トン 271-21956（船舶検査済票番号）、個人所有 7.76m (Lr) × 2.06m × 0.66m、FRP ディーゼル機関、69.9kW、平成元年7月20日 B モーターボート ^{のうた} 納田丸、5トン未満 271-21574岡山、個人所有 6.92m (Lr) × 2.07m × 0.66m、FRP ディーゼル機関、95.6kW、平成元年5月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 48歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成4年3月24日 免許証交付日 平成18年8月30日 （平成24年3月23日まで有効） B 船長B 男性 61歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和59年10月31日 免許証交付日 平成20年11月21日 （平成26年10月30日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	A 左舷船尾上縁材に亀裂 B 船首に擦過傷
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、香川県坂出市 ^{ひつ} 櫃石島西方付近で釣りを終えて下津井港に帰港するために北進した。 船長Aは、左舷船首約55° 1,000m付近に前路を右方に横切る態勢のB船を初認したが、B船が避航船なので、A船は避けなくてもよいと思い、操舵室右舷側で後片付けをしていたところ、平成23年1月10日11時45分ごろ、下津井港南方沖において、A船の左舷船尾とB船の船首とが衝突した。

	<p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、同乗者5人を乗せ、香川県多度津町沖で釣りをしていたが、風が強まったので岡山県玉野市田井港に帰港することとし、船長Bが、風や波でB船が揺れて思うような操船ができない状態で東進中、右舷船首約15mのところA船を初認して右に転舵したものの、A船と衝突した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北西、風力 4、気温 4.8℃ 海象：海上 波高約1m、潮汐 上げ潮の中央期、潮流 西流 約1.4ノット (kn)</p>	
その他の事項	<p>船長Aは、海上保安庁の調査により、本事故当時、A船の速力が対地速力約7.8knであることを知った。 船長A及び同乗者は、本事故当時、救命胴衣を着用していた。 A船は、汽笛などを装備していなかった。 A船は、GPSプロッターを装備していないため、船長Aは、速力が分からず、いつも機関の回転数から速力の見当をつけていた。 A船は、操舵輪がなく、舵棒で操舵するが、舵棒から手を離しても直進することができた。 A船は、本事故当時、舵や機関の故障などの不具合はなかった。 船長Bは、海上保安庁の調査により、本事故当時、B船の速力が約9.0knであることを知った。 船長B及び同乗者全員は、本事故当時、救命胴衣を着用していなかった。 B船は、レーダーを装備していなかった。 B船は、本事故当時、舵や機関の故障などの不具合はなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし あり</p> <p>A船は、下津井港南方沖において北進中、船長Aが、左舷前方に接近するB船を初認した際、B船が避航船なので、A船は避けなくてよいものと思込み、操舵室右舷側で後片付けをして見張りを行っていなかったことから、接近するB船に気付かず航行し、B船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、下津井港南方沖において東進中、船長Bが、風や波による動揺で意図するような操船が困難であったので、操船に意識を集中し、適切な見張りを行っていなかったことから、衝突直前までA船に気付かず航行し、A船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、下津井港南方沖において、A船が北進中、B船が東進中、船長Aが、左舷前方に接近するB船を初認した際、B船が避航船なので、A船はB船を避けなくてよいものと思込み、操舵室右舷側で後片付けをして見張りを行わず、また、船長Bが、操船に意識を集中し、適切な見張りを行っていなかったため、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	